

日本国内に居住する中国朝鮮族の 生活形態に関する研究

尹 紅 花

キーワード：日本に居住する中国朝鮮族，留学生，民族教育，アイデンティティ

要旨

本稿では、筆者がこれまで行った朝鮮族の歴史と民族教育に関する研究を踏まえ、日本に来ている朝鮮族の新しい生活形態と民族教育に対する考え方を調査したものである。取り上げたのは、現在それぞれ違うビザを持っていて、また、日本に10年以上住んでいる5家族で、これらの家庭生活を主に聞き取り、その家庭の生活様式と言語教育に関する内容を詳しく調べ分析を試みた。また、中国朝鮮族の会員数日本一のサイトSHIMTOの2006年から2010年までの家庭教育コーナーを調べ、次世代教育に関する考え方を紹介した。中国朝鮮族は、朝鮮民族のアイデンティティと中国人としてのアイデンティティの二重文化を持っている。日本で生まれた子供は、さらに日本文化の洗礼を受けて、家庭の中で両親が持つ二つの文化を加えられ、三つまたはそれ以上の文化を持つことになる。多重文化体系を持っていることは、その分、心の迷いも多いことを意味する。ルーツを知り、生きていくための基盤を作ることは、個人、民族にとって重要な意味を持つ。

1. はじめに

中国は多民族国家である。50年代に行った社会調査により、現在承認されている民族は漢族をはじめ計56個ある。中国朝鮮族はその中の少数民族（漢族を除く）の一つで、2000年の人口統計によると、192万人の人口を有し、中国では13番目に多い少数民族である。

朝鮮族の起源は朝鮮半島にあり、国境を越えて中国領内で生活を始め

た歴史は150年近い。朝鮮族は、儒教の影響を深く受けた民族であり、教育への情熱が深い。1999年に出版された『当代中国朝鮮族』⁽¹⁾によると、東北3省と内モンゴルを合わせて、朝鮮族小学校が約700か所、朝鮮族中学校が約200か所ある。朝鮮族自治州、自治県、自治郷など朝鮮族が集中して暮らしている場所には、朝鮮族学校が建てられていた。

1978年の改革開放以後、特に1992年8月中国と韓国が国交を結んで以来、中国国内と海外への出稼ぎにより、朝鮮族の伝統的な社会は崩れ始めた。民族社会の崩壊につれて民族教育の現場も縮小を始め、地方の朝鮮族学校や学級は消失し、延吉、龍井、和龍など県レベル都市の周囲にのみ残されている。また、青島、北京など朝鮮族の移動先の人数が多い沿海地域の大都市部にも新たな私立朝鮮族学校が設立されている。

2009年に明かされた統計⁽²⁾であるが、延辺⁽³⁾地域の朝鮮族学校の欠損家庭⁽⁴⁾の学生数は60%を超えており、一部の学級は87%を超えているという。

その父母はどこに消えたのか？ 黒龍江新聞⁽⁵⁾によれば、東北3省以外に進出した中国朝鮮族の推定人口は、韓国に約20万人、山東省に約18万人、広東省に約10万人、北京に約8万人、上海に約6万人、日本に約5万3千人がいる。出稼ぎブームに乗って、朝鮮族の親は、中国の沿海都市や韓国、日本などの海外に流出しているという事実がアジア経済文化研究所⁽⁶⁾の調査として紹介されている。それによると、2005年現在日本に滞在している中国の朝鮮族の数は約5万3千人である。地域別から見れば東京に2万2千人、横浜・静岡に9千人、千葉・埼玉に9千人、大阪・神戸に8千人、愛知・三重・岐阜に3千人、東北・北海道に1千人、九州・四国に1千人である。

本稿では、主に日本に来ていた5万3千人の朝鮮族の生活形態に焦点を当てる。まずは結婚生活を中心とした生活形態、子供の教育に関する考え方と実際の教育方針などに関して論じたい。研究方法は、5つの家族の生活形態を詳細に分析することと、中国朝鮮族の会員数が日本一のサイトSHIMTO⁽⁷⁾の2006年から現在(2010年)までの教育に関する記録を整理し、紹介したい。

2. 事例から見る日本に居住する中国朝鮮族の生活形態

2.1 日本に居住している中国朝鮮族の基本生活

まず、この論文で取り上げる5つの家族の基本生活形態を第1表で確認しておきたい。

第1表からは、来日している中国朝鮮族の次のような基本情報が伺える。

- ① 全員日本語学校などの就学ビザで来日し、短大、4年制大学などの留学ビザに切り替えて、その後現在のビザに変化している。

最初に、日本に来た中国人は、北京や上海など大都市の漢族であった。90年代までは、日本に入国するためには保証人が必要で、大都市の人々のほうがその情報を得やすかったからである。

1996年12月から、保証人制度はなくなり、留学生は自国の証明書類だけで日本に来られるようになった。但し、1997年のアジア金融危機⁽⁸⁾の影響で、朝鮮族がより多く日本に来られるようになったのは2000年前後

第1表：日本にいる朝鮮族の基本生活形態

	Jさん	Sさん	Lさん	Yさん	Zさん
性別	女	女	男	女	女
年齢(2010年)	37	34	38	36	41
来日した年(年)	1999	2000	1999	2000	2000
配偶者の民族性	朝鮮族	朝鮮族	漢族	朝鮮族	日本人
中国での学歴	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	高校
日本での学歴	短期大学	4年制大学	短期大学	大学院修士	専門学校
当初のビザ種類	就学	就学	就学	就学	就学
現在のビザ種類	経営, 投資	国際業務	永住	留学	帰化
職業	飲食店 経営	韓国系証券 会社 勤務	製造業 勤務	学生	飲食店 経営
持ち家	なし	マンション	1戸建	なし	1戸建
子供人数	2	1	1	2	2

筆者のインタビューより作成

からである。

最初に日本に来た朝鮮族は、そのほとんどが就学ビザ⁽⁹⁾であった。現在では、大学などを卒業し、就職したり、家族を連れてきたりあるいは日本国内で子供が生まれたり、ビザの種類も増えている。

韓国に行く朝鮮族は、老若男女の幅が広く、出稼ぎが主な目的で、学歴の制限はない。90年代後半に先に韓国に行った親が、自分の子どもを韓国に呼び、留学させるケースも増えている。しかし、日本にくる朝鮮族は、日本の入国管理局の厳しい制限もあって、高校卒業が最低の前提条件となっている。最初に日本に来た朝鮮族のほとんどは、就学ビザ取得者である。

② 全員10年以上と長期滞在している。

日本に来ている朝鮮族は、長く住んでいこうとする傾向がみられる。

2001年に行われた「在日本中国朝鮮族実態調査に関する報告」によれば、当時の中国朝鮮族の「今後の予定」は第2表どおりである。

引き続き日本に住む割合は18.3%占める。実際日本に引き続き滞在している人の比率は、「まだわからない」滞在を迷う人の数も合わせるとそれ以上であることが推測できる。

この論文で取り上げた5人に引き続き滞在の理由を聞くと次のような背景がわかる。

Jさん：「日本に来た当時、中国に帰りたいかった。それで、来日9年目に、夫と子供2人が先に半年帰って見たが、結局なじめなくて、戻ってきた。ずっと、日本で暮らすつもりでいる。」

Sさん：「英語ができなくて自信が持てない私を、韓国系の証券会社が雇ってくれた。仕事が好きだから、日本での暮らしを続けたい。また、

第2表：中国朝鮮族の今後の予定（2001年）

まだ分らない	帰国する	引き続き日本に住みたい	他の国に移住したい	其他
37.5%	32.5%	18.3%	9.2%	2.5%

出所：（中国朝鮮族研究会⁽¹⁰⁾編（2006）『中国朝鮮族叢書Ⅰ 朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所）212頁より 筆者作成

子供には中国語より英語を習わせたい。」

Ｌさん：「3人兄弟で、姉は日本人と結婚している。姉の夫のおかげで今の会社に入れた。日本に骨を埋めたい。」

Ｙさん：「中国に帰っても、自分のポジションを見つける自信がない。」

Ｚさん：「朝鮮族の夫と離婚して来日し、日本人と再婚している。前夫との子供も日本に引き取って、学校に通わせているので、もう、中国に戻ることはないだろう。」

日本に根を下ろして生活し続ける人と、中国に戻れなくやむえず日本に残っている2種類に分けることができる。

③ Ｚさんを除いて、みんな日本で子供をもうけている。

中国国内で、高校あるいは大学を卒業して日本に留学生として来ている朝鮮族は、そのほとんどが20代または30代前半に来日している。すなわち、留学時期がちょうど結婚年齢と生育年齢に重なっている。朝鮮族の多くは、日本で結婚し、家庭を持ち、子供をもうけている。このような現象は、次に、教育問題に直面することになるだろう。

日本で生まれる朝鮮族も、戸籍としては、中国の朝鮮族の一員として登録されているが、民族教育すなわち朝鮮族学校に入る頭数には入らないため、延滞では、朝鮮族の子供の数が増えないことを心配されている。なぜなら、子供の数が増えないと民族学校の運営が危うくなるからである⁽¹¹⁾。

Ｚさんは、中国国内で結婚していて一人の女の子を持っていた。日本人男性と再婚して、一人の男の子を生み、今は二人の母親である。前夫との子供も、日本の公立小学校に入れている。

2.2 日本に居住している中国朝鮮族の民族教育に関する考え方（詳細）

中国から日本に移住が始まったのは、80年代の後期からである。朝鮮族の一部もその波に乗ってきたが、最初は北京、上海などの大都市部からである。2000年前後に、多くの朝鮮族が来日していて、それから子供が生まれ、学校教育のことを考え始めている。2010年現段階で、日本に来ている朝鮮族の民族教育の考え方を論じるのはまだ時期が早いと考えられる。

しかし、20年後の朝鮮族の民族教育を考えるためには、現段階での考え方や実施状況を詳しく記録しておく必要があると確信する。

2.2.1 Jさんの民族教育に関する考え方

第3表から次のようなことが分かる。

Jさんの場合、二人の男の子を持っている。長男は、今年6歳で、6ヶ月から3歳まで、祖父母や、親戚の伯父さんの家で、朝鮮語（あるいは韓国語）の生活をした。日本に来て、すぐ保育園に入れられ、日常生活のレベルの日本語は問題ない。ただし、保育園で周りの園児たちと争いごとが起こったりすると、気持ちを表す言葉が出なくなって、悔しくて泣いたりしたことも少なくない。今年、中国の漢族幼稚園に半年間入れてみた。中国語も少しはしゃべれるようになったが、日本に戻ると、「僕は、日本人だよ。日本語がすき」と、中国語に抵抗を見せているという。

次男は、今年4歳で、1歳まで、延辺の祖父母が育てた。朝鮮語は簡単な単語にとどまり、延辺訛りの朝鮮語ではなく、日本語に慣れた人が発音するような朝鮮語（日本人なまりの韓国語）になっている。兄と同じく、

第3表：Jさんの一家の言語生活

	朝鮮語	日本語	中国語
名前の呼び方	○	○	×
おかずの呼び方	○	○	○
どんな歌を教えたのか	○	○	×
どんな絵本を教えたのか	×	○	×
日常会話	○	○	×
中国の祖父母への電話 (Jさんの場合)	○	×	×
中国の祖父母への電話 (Jさんの子供の場合)	×	×	×
中国の祖父母に対面可能なMSNなどのインターネット通信はしているのか	×	×	×

出所：筆者のインタビューより作成

今年半年間中国の漢族幼稚園に通っており、結構中国語ができるようになったが、日本に帰ってきて、中国語は全然話そうとしない。

Jさんは民族教育に関してこういう。「私は、中国での生活をあきらめた。子供には、特に民族言語を教える考えはない。子供は日本語で生きていってもかまわない。」

2.2.2 Sさんの民族教育に関する考え方

第4表からは次のようなことが分かる。

Sさんの場合3歳の一人の男の子を持っている。長男は、6か月まで、日本で母方の祖母（朝鮮族）と暮らした。6か月からは日本の保育園を通い始めた。Sさんは、家では、主に朝鮮語を中心に生活しているという。特に、インターネット⁽¹²⁾で流れている、朝鮮語の歌はほとんど息子に教えたという。主人は延辺人で、Sさんは黒龍江省の人だが、子供は外祖母と同じく黒龍江省の方言の訛りの入っている朝鮮語を話しているので、主人も延辺訛りではなく、黒龍江省地域の訛りの付いている朝鮮語に変えて話しているとのことである。Sさんは頻繁に、国内と連絡を取って

第4表：Sさんの一家の言語生活

	朝鮮語	日本語	中国語
名前の呼び方	○	○	×
おかずの呼び方	○	○	○
どんな歌を教えたのか	○	○	○
どんな絵本を教えたのか	○	○	×
日常会話	○	○	×
中国の祖父母への電話 (Sさんの場合)	○	×	×
中国の祖父母への電話 (Sさんの子供の場合)	○	×	×
国内の祖父母に 対面可能なMSNなどの インターネット通信はしているのか	×	×	×

出所：筆者のインタビューより作成

おり、子供も、家では、発音がきれいで純粋度の高い朝鮮語が話せるという。

幼児の言語は、一緒に暮らしている人の影響を受けやすい。特に母親の考え方や話し方の影響を受ける。民族言語を勉強させ、維持させるためには、母親を離れては実現できない。

2.2.3 Lさんの民族教育に関する考え方

第5表からは次のようなことが分かる。

Lさんの妻は中国ハルビンの漢族である。夫が朝鮮族であることを全然感じずに漢族と思って付き合い始めたという。

Lさん自身もハルビン出身で、学校は朝鮮族学校を通ったものの、日常生活は全部中国語のみであった。大都市部に散在している朝鮮族は、周囲環境に漢語（中国語）が多いため、漢族化が急速に進んでいる。機会があれば、息子にも朝鮮語を教えたいが、ただ、漠然とした望みである。

Lさんには、4歳の息子がいる。一回も両親を離れたことがない。4か月からずっと保育園に通っている。中国語の歌は、母親から習って何曲

第5表：Lさんの一家の言語生活

	朝鮮語	日本語	中国語
名前の呼び方	×	○	○
おかずの呼び方	×	○	○
どんな歌を教えたのか	×	○	○
どんな絵本を教えたのか	×	○	×
日常会話	×	○	○
中国の祖父母への電話 (Lさんの場合)	○	×	○
中国の祖父母への電話 (Lさんの子供の場合)	×	×	×
国内の祖父母に対面可能なMSNなどのインターネット通信はしているのか	×	×	×

出所：筆者のインタビューより作成

か知っているが、もう日本語のみの生活である。母方の祖母からは、子供が産まれたら面倒を見てあげるといわれ続けたが、またLさんの夫婦もそのつもりでいたが、子供が生まれる前に糖尿病でなくなってしまったのである。もし、元気でいれば、子供は1年間は中国に送る予定であったという。

2.2.4 Yさんの民族教育に関する考え方

Yさんは、6歳の長男と2歳の長女を持っている。

長男は、1歳になってからずっと祖父母と暮らしている。祖父母と同じく、延びなまりの朝鮮語が話せる。近所にいる遊び相手は漢族の子が多く、日常会話の中で漢語の割合が高い。中国の子供むけのアニメーションなどのテレビ番組は、そのほとんどが中国語で、朝鮮語の放送は少ない。朝鮮族学校に通わせる予定である。

長女は両親と一緒に日本で暮らしている。2歳から保育園に通っており、それまでは歌以外は朝鮮語で会話したが、現在の日常会話は、朝鮮語混じりの日本語である。毎週、祖父母とパソコンを使って会話をし

第6表：Yさんの一家の言語生活

	朝鮮語	日本語	中国語
名前の呼び方	○	○	○
おかずの呼び方	○	○	×
どんな歌を教えたのか	○	○	○
どんな絵本を教えたのか	×	○	×
日常会話	○	○	×
中国の祖父母への電話 (Yさんの場合)	○	×	×
中国の祖父母への電話 (Yさんの子供の場合)	○	×	×
国内の祖父母に対面可能なMSNなどのインターネット通信はしているのか	○	×	×

出所：筆者のインタビューより作成

いるが、発する言葉は日本語で、相手の質問に答えるときは朝鮮語である。母親は、漢族の人と会うと中国語で会話して、朝鮮族の人と出会うと朝鮮語でしゃべり、日本人と出会うと日本語でしゃべるため、長女は中国語、朝鮮語、日本語に敏感になっており、最小限の区別が付いている。テレビで英語が流れてくると関心を示さない。

2.2.5 Zさんの民族教育に関する考え方

Zさんには中国人の前夫との一人の娘と、日本人の夫との1人の息子がいる。長女が小学校2年生の時、日本に連れてきて、公立小学校に送った。朝鮮語の土台（読み書き）がしっかりできていて、現在も忘れている。日本語の吸収も早く、クラスで成績が1位になるぐらいである。

夫は養子で子供が産める女性なら誰でもよかったそうだ。長男が誕生し、Zさんは飲食店とカラオケを経営している。永住権を取ったが、銀行の融資の利用が難しかったため、帰化を選んだ。長男は、日本人であるため、民族教育とは無縁であるという。

第7表：Zさんの一家の言語生活

	朝鮮語	日本語	中国語
名前の呼び方	○	○	×
おかずの呼び方	○	○	×
どんな歌を教えたのか	○	○	×
どんな絵本を教えたのか	×	○	×
日常会話	○	○	×
国内の祖父母に電話するのか (Zさんの場合)	○	×	×
国内の祖父母に電話するのか (Zさんの子供の場合)	○	×	×
国内の祖父母に対面可能なMSNなどのインターネット通信はしているのか	×	×	×

出所：筆者のインタビューより作成

上の5つの事例から見ると次のようなことが伺える。

- ① 中国朝鮮族は日本で生活していても、国内の両親または親戚の力に頼りがちである。それは、近代化が成熟した日本の社会と違う現象である。まだ強い家族観念が残っていることを意味する。
- ② 次世代の使用する言語は、母または直接育てる側の影響を受けやすい。
- ③ 両親が二重文化を持っていても、意識的に教育をしない限り、その文化は受け継がせることは難しい。国内とのつながりと日本生活での溶け込みが矛盾を生じる場合、心の余裕がなくなり、目の前のことに精一杯になりがちである。
- ④ 言語を通じて文化を伝授することは共同体の努力がなければ実現しにくい。

3. 「SHIMTO」から見た朝鮮族の次世代教育に関する考え方（紹介）

SHIMTOの家庭教育コラムには、2006年から2010年まで計約51520件の書き込みが残っている。時間をかけて全部読んでみた。その中から、中国の朝鮮族としての、日本に居住している中でのさまざまな戸惑いを感じることができた。これに対しての内容は引き続き、分類し分析したいと思う。第8表の内容は、その中から代表的な考え方を紹介したものである。

4. 結論

日本に来てはじめて中国朝鮮族としてのアイデンティティを意識するようになり、そのルーツを知りたくて、朝鮮族の歴史と教育を研究テーマにして、修士2年と博士3年を費やした。その過程で、韓景旭⁽¹³⁾、劉京宰⁽¹⁴⁾、許寿童⁽¹⁵⁾、金美花⁽¹⁶⁾など在日本中国朝鮮族研究者の本と出会い、中国朝鮮族研究会とも出会った。

中国朝鮮族は越境民族で、150年と中国国内での歴史は短い。中国朝鮮族の出現は、東アジアの近現代の歴史の産物である。150年前、朝鮮半島の朝鮮人は様々な背景から自分たちの故郷を離れて暮らすことになった。

第8表：2006～2010年「SHIMTO」の掲示板から見る朝鮮族の次世代教育

ハンドル ネーム	子供の 年齢（歳）	子供の居場所	発信内容（部分）
都市ナムル (도시나물)	2	中国の祖母	子供は漢族幼稚園に通わせていて中国語が朝鮮語より上手である。
火種 (불씨)	12	日本	4年前に中国に送って、今年連れてきた。子供の日本生活を心配したが、大丈夫だった。
justin	2	日本	2歳まで中国の祖父母に任せてたら、親戚の人を母のように慕って、少しやきもちをしたことがある。
仙女 (선녀)	3	日本	3歳まで中国の祖母が面倒見てくれた。心は痛かったが、経済状況が不安定で、今は一緒に暮らしている。
au	不明	不明	日本の公立学校は経済的な面でとても有利だが、中国に帰った後のことを考えると、中華学校に通わせたほうがいい。
曲げたもの (꼬부나)	不明	不明	延吉にいる私の同級生、みんな、自分の子供を漢族の学校に通わせていた。自分が受けた教育に不満だったのかな。
緑色のバラ	不明	不明	子供は環境の影響を受けやすいから、家だけに閉じこもらないで、年寄り、パパの友人、ママの友人、近所の人といろいろ付き合ったほうがいいですよ。中国人、朝鮮人、日本人にも遊ばせたほうがいいですよ。

出所：2006～2010年「SHIMTO」の掲示板から筆者抜粋

彼らは、主に日本・中国・ロシアに移住している。図們江と鴨緑江を越えて中国の東北地区に移住した朝鮮人たちは新中国が成立した後、中国の国籍をとって「中国朝鮮族」としての生活を営んできた。船に乗って、海を越えて日本に来た朝鮮人の人々は「在日朝鮮人」または「在日韓国人」として生きてきた。

本稿もこれまでの研究過程を踏まえて、日本に居住している中国朝鮮族の生活様式と教育観の実態を認識するためである。越境民族の新たな

移住, その社会的背景を知り, 記録分析することは, 個人, 民族にとって重要な意味をもつと筆者は考える。

註

- (1) 東北朝鮮民族教育出版社
- (2) 延辺朝鮮族自治州「朝鮮族学校欠損家庭子女教育研究会」(조선족학교결손가정자녀교양연구모임)
- (3) 延辺: 朝鮮族最大の集中地域である。
- (4) 欠損家庭: 両親のうち, 片方または両方とも家庭の中で一緒に生活しないものをさす。その理由として挙げられるのは, 死別, 離婚, 片方または両方の出稼ぎなどがある。
- (5) 黒龍江新聞 (2006. 9. 19) 火曜日第5面 (世論広場)
- (6) 代表理事: 劉京宰 (朝鮮族)
- (7) <http://www.shimto.com/> 2002年に創設。2008年の会員数約6万5千人である。shimtoは日本語で「憩いの場」の意味である。
- (8) IMFショックを称す。
- (9) 持っているビザの種類には, 留学をはじめ就労 (外交, 教授, 芸術, 人文知識国際業務など20種類), 永住など全部で27種類がある。
- (10) 中国朝鮮族研究会: 代表は李鋼哲, 北陸大学教授である。
- (11) 中国では, 70年代末から「一人っ子」政策を実施している。それと伴い, 急速に少子化と高齢化が進んでいる。少数民族に対しては, 優遇政策として, 二人まで生むことが許されている。朝鮮族は, ほかの民族より中国国内での歴史が短く, 儒教の影響も多く受けており, 国の政策を真剣に受け止めている。「一人っ子」の家庭も特に多い。
- (12) 例えば <http://kr.kids.yahoo.com/> というサイトがある。名前どおり子供向け童謡, 童話, 学習などさまざまなジャンルがある。
- (13) 韓景旭 (1996)『韓国・朝鮮系中国人 朝鮮族』中国書店 現在, 西南学院大学国際文化学部教授である。
- (14) 劉京宰 (2004)『中国朝鮮族のエスニシティ形成と拡散に関する研究』名古屋大学国際開発研究科博士論文 現在, アジア経済文化研究所所長である。

- (15) 許寿童 (2009)『近代中国東北教育の研究』明石書店
- (16) 金美花 (2007)『中国東北農村社会と朝鮮人の教育—吉林省延吉県楊城村の事例を中心として (1930-49年)』お茶の水書房

参考文献

中国語（漢文）文献

- 宣德五・金祥文・趙習編著 (1985)『朝鮮語簡志』民族出版社
- 《朝鮮族簡史》編写組 (1986)『朝鮮族簡史』延辺人民出版社
- 金東勛・金昌浩著 (1990)『朝鮮族文化』吉林教育出版社
- 延辺朝鮮族自治州地方志編纂委員会編 (1996)『延辺朝鮮族自治州志 (上, 下)』中華書局
- 孫春日主編 (2002)『中国朝鮮族社会文化發展史』延辺教育出版社
- 許青善・姜永徳主編 (2002)『中国朝鮮民族教育史料集 (1)』延辺教育出版社
- 許青善・姜永徳・朴泰洙主編 (2003)『中国朝鮮民族教育史料集 (2~4)』延辺教育出版社
- 孫春日著 (2003)『『満州国』時期朝鮮開拓民研究』延辺大学出版社
- 延吉市統計局 (2005)『延吉統計年監-2005』中国統計出版社
- 中国少数民族簡史叢書 (修訂本) (2009)『朝鮮族簡史』民族出版社
- 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊 (修訂本) (2009)『吉林省朝鮮族社会歴史調査』民族出版社

朝鮮語文献

- 연변대학교육학심리학교연실, 연변민족교육연구소교육사연구실 (1987)『연변조선족교육사』(『延辺朝鮮族教育史』) 延辺人民出版社
- 최상록・지청산・김룡철 (1995)『중국조선족교육의 현황과 전망』(『中国朝鮮族教育の現況と展望』) 延辺大学出版社
- 김경식・최수산・최봉룡 (2001)『조선족 생활사』(『朝鮮族生活史』) 문음사
- 김상녀주필 (2002)『조선족교육의 연구와 실천』(『朝鮮族教育の研究と実践』) 遼寧民族出版社
- 황유복 (2002)『중국조선족사화와 문화의 재조명』(『中国朝鮮族社会と文化研究』)

遼寧民族出版社

- 임계순 (2003)『우리에게 다가온 조선족은 누구인가』(『われわれに近づいた朝鮮族とは』) 현암사
- 이재달 (2004)『조선족사회와의 만남』(『朝鮮族社会との出会い』) 모시는 사람들
- 천수산주편 (2005)『조선족역사의 새 탐구 (상, 하)』(『朝鮮族歴史の新探求』) 신성출판사

日本語文献

- 高崎宗司 (1996)『中国朝鮮族 歴史・生活・文化・民族教育』明石書店
- 田畑久夫・金丸良子・新免康・松岡正子・索文清・C. 다니エル스 (2001)『中国少数民族事典』東京堂出版
- 佐々木衛・方鎮珠編 (2001)『中国朝鮮族の移住・家族・エスニシティ』東方書店
- 韓景旭 (2001)『韓国・朝鮮系中国人 朝鮮族』中国書店
- 劉京宰 (2004)『中国朝鮮族のエスニシティ形成と拡散に関する研究』名古屋大学国際開発研究科博士論文
- 亀井高孝・三上次男・林健太郎・堀米庸三編 (2006)『世界史年表・地図』吉川弘文館
- 中国朝鮮族研究会編 (2006)『中国朝鮮族叢書 I 朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所
- 金美花 (2007)『中国東北農村社会と朝鮮人の教育—吉林省延吉県楊城村の事例を中心として (1930-49年)』お茶の水書房
- 岡本雅享 (2008 増補改訂版)『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社
- 許寿童 (2009)『近代中国東北教育の研究』明石書店
- 權香淑 (2010)『移動する朝鮮族』彩流社